

合格体験記

氏 名:

担任講師: 斎藤拓也

先生

在籍校舎:

王手

校

進学先

早稲田大学文化構想学部

その他
合格校

早稲田大学文学部、教育学部、人間科学部、明治大学政治経済学部、早稲田大学経済学部

*入試に役立った先生のアドバイス・勉強方法や、合格につながった体験・エピソード等を書いてください。

三年前、高校に入学した時、自分が早稲田に入るとはまさか思わなかったし、今でもまだ、あまり実感がない。それくらい早稲田は自分から遠い場所だった。だけど、たどり着くことができた。それにはいくつかのターニングポイントがあったように思える。まず一つは、教わりすぎなかったことだ。これは一見、教養の常識から外れているようにも思えるかもしれない。しかし、教わってばかりだとどうしても受動的になってしまい、自分の頭で考える機会が減ってしまう。松大の文系は、数学もよく解答もマークが多いので、暗記ばかりになり、あまり考える必要がないと考えるかもしれない。しかし、考えることで暗記の量も減るし、イレギュラーな問題にも対応できるようになる。そして何よりレベルの高い松大の問題は考えないと解けないようになってきているのだ。だからこすたとえ松大も嫌とはいっても教わりすぎず自分の頭で考えたいといけたいのである。二つめは、無理をせず出る範囲で積み重ねていったことだ。一般に難関大を受けるとすると一日十数時間勉強しないといけない。とされたりもするが、自分はそんなことは決してないと思う。むしろ一日十数時間も集中を保てる人が一体どれくらいいるのだろうか？少なくとも自分は無理だ。合格するためには努力するのだからかもしれないが、人間をやめるほど勉強する必要は決して無いのである。その定期テストの前には課題が積み重なって、もっと早く勉強しておけば良かったと思いきや、たまたま人にも少なからずいたように、受験も同じで、一年をいじけ二年といふ、非常に長い入試のなかで、早稲田に受かったことに今は何を言ってもいいの



稻門學舍